

医療福祉の地域創造会議 通信 第127号

(R6.8.1)

第123回ワーキンググループ会議 (R6.7.25)

第一部 ライブ料理教室

- ・豚肉のリエット・アンチョビピュレポテト
- ・サーモンのムース・デザート

下ごしらえした材料をミキサーで仕上げ、手作りソースで幸せレシピ完成。パイオンなどで水分を調整し、個人に合わせとろみ食にできる。

見た目も美しく美味しかった



指筆談

介助者が指先を支えて指の腹で文字を書く方法

視線入力装置

パソコンの画面を見ながら、眼球の動きで文字を入力し、コミュニケーションをとる。

レヴォヌール
古池 汰成 さん



第二部 講演 ～幸せへ繋ぐ食～

障がいのある妹と一緒にいることが、特別ではなく、当たり前前の日常である。介護が必要になり、寝たきりになった祖父のことも、妹と接してきたから、自然と受け入れられた。

指筆談で、コミュニケーションが取れるようになり、妹と会話を楽しめるようになった。一生、自分の足で歩くことは出来ないと言われた妹の、自分の足で中学校の卒業証書を受け取りたいとの思いが、歩行器とのご縁で叶った。歩行器を使って、地域のマラソン大会に出場したり、地域の方と交流したり、活動の場が広がった。東京オリンピックの聖火ランナーも努めた。視線入力装置を使ったコミュニケーションも取れるようになり、ゲームなども楽しめるようになった。嚥下食に対応した料理教室開催や、イベント参加を通じて、たくさんの方に知っていただけるように頑張っている。フランス料理という分野で、飲み込みが困難な方にも美味しく料理を楽しんで貰いたい思いで、自分も楽しみながら前進していきたい。

参加者の声

インクルーシブ：仲間外れにしない。みんなで一緒に。全ての人が取り残さず、その人権や尊厳に配慮する尊い理念。

第123回ワーキンググループ会議は、二部形式で、一部ではライブ料理教室をしていただきました。温かい和やかな時間となりました。二部では、試食もあり、いただきながら貴重なお話を伺いました。参加者の皆さんが終始笑顔で、美味しいお料理は幸せと笑顔を運んでくれました。

今後のお知らせ

総会・研修会

日時：令和6年8月25日(日)

14:15~17:15 (受付 13:30)

場所：ピアザ淡海 大会議室 (大津市におの浜一丁目 1-20)

*ハイブリット開催

14:15~総会

14:35~講演

《テーマ》「脳の仕組みと地域回想法」

講師：老人保健施設アルカディア氷見 施設長 長谷川 健 氏

15:45~取組報告

《テーマ1》「高齢者の出番作りふるさと回想法のススメ」

講師：甲賀市山内エコクラブ 保健師 竜王 真紀 氏

《テーマ2》「地域がいいきと輝く地域ボランティアによる回想法の取組み」

講師：守山市回想法ボランティア「いいき」代表 伊藤 優 氏

視線入力装置で、ゲームができるなど、こんな事ができるが増えていき、幸せのレベルの平均を上げていけると良い。

チャレンジ(ゴムボート)、固定観念で諦めると楽しくなくなるので日々考えていきたい。

味や匂いは大切。胃ろうの方でも食事が楽しめる事、匂いや味が分かると聞きびっくりした。インクルーシブ料理を社会で共有できれば幸せ。食という同じ一つの物で、ここまで様々な角度からアプローチできるものかと驚き、コラボ、リンクして何かできるかもと思う。各専門分野とコラボして開発して欲しい。皮膚と食べ物との関係も深い。食事をする時は幸せな気持ちになり、自然に笑顔になるので、会話もしやすくなり、イベントに組み込まれているのは良い。

古池さんのお母様の子育てが素晴らしい。手伝ってとかではなく、自然に関わるようにしてきたから負担に感じることなく一緒に過ごして来れたと思う。

食事から、医療や福祉を見ること。画一的に見ないことが大切。食べ物から生きる幸せに繋がるという例を知れた。最期まで何かを口に出来ることは生きる幸せに繋がる。古池さんのような方が増え、情報共有し合えれば、要介護者、ケアラーと一緒に食事を楽しめる。一緒に過ごしていることが特別ではなく、当たり前前の世の中になっていくと良い。

医療福祉の地域創造会議運営事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

TEL:077-528-3529

FAX:077-528-4851

E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

